

連載企画【第3回】
「お墓」のはなし

お墓をキレイにしませんか？

～やさしさを育てる場所～



有限会社 福井石材
代表取締役 福井 基紘

子どもとお墓参りへ

私は年に一度、石材店としての勉強のため、香川県高松市で行なわれる石材業界の展示会へ行っています。その中で、お墓参りをしているところの写真を集めた写真展“お墓参りの写真コンテスト”が開催されており、毎回すごく心を動かされています。展示されている写真1枚1枚が、故人に対しての想いや感謝の気持ちであふれているのです。

その中で特に私が好きな作品は、“子どもがお墓と写っている写真”です。例えば「1年生になったよ」というタイトルの作品は、お墓の前にピカピカのランドセルを背負った女の子が立っています。ご先祖様に成長した姿を見せたかったのでしょうか、その姿はどことなく嬉しそうです。また、「雨の降る日のお墓参り」という作品では、お墓参りをしていたら雨が降ってきてしまったので、持っていた傘を幼い兄弟が自分たちでなく、



“じいじが濡れちゃうよ”と、お墓にむかって傘をさしてあげているのです。それを見たとき、その兄弟のやさしさに心が洗われるような気持ちになったのを覚えています。

他にも、子どもがお墓参りを一生懸命手伝っていたり、掃除をしている写真がいくつかありました。毎度とても感動させられます。ただ、このようなことは、周りの大人が、お墓参りがどういうもので、なぜするのかということを教えてあげなければ、できることではありません。

お墓参りがやさしさを育てる

お墓というものの意味が分からなければ、子どもにとっては、ただの大きい石の前で手をあわせる場所にすぎないのです。だからこそ、大人が分かりやすく、かつ真剣に、「このお墓の中には自分のご先祖様が眠っているんだよ。この人たちがいなければ、あなたは今ここにいないんだよ。」ということを教えてあげてください。ご先祖様が分かりにくければ、“お父さんのお父さん”また、“おじいちゃんのお母さん”など分かりやすい言葉が良いと思います。

自分が生まれる前に、実はとてもお世話になった人たちがいたんだということが分かってもらえれば、きっとご先祖様への感謝の気持ち、やさしい気持ちをもってもらえるのではないのでしょうか。

墓石の取扱いには、十分ご注意を！！

夏になれば今年もお盆がやってきます。たくさんの方がお墓に行かれ、掃除をされることでしょう。しかし、石は丈夫そうに見えて実はデリケートなものです。お墓掃除の際には、是非気をつけていただきたいことがあります。石は圧縮されるような力には強いのですが、コツンとあてるような衝撃にはすごく弱いのです。もし、お墓の石を動かすときは、かすかでもコツンという音がしないように、ゆっくりそお一つと行なってください。

お墓を掃除し、キレイになれば気持ちが鎮まり心が清々しく一新されることでしょう。ご先祖様はきっとあなたを守ってくださいます。